

2024年版

農業技術大系

野菜編

全12巻 13分冊 ￥154,765円+税

一般社団法人 農山漁村文化協会

全12巻 13分冊の内容構成

第1巻 キュウリ・ニガウリ

第2巻 トマト

第3巻 イチゴ

第4巻 メロン類・スイカ

第5巻 ナス・ピーマン（カラーピーマン、トウガラシ類）・カボチャ

第6巻 レタス・サラダナ・セルリー・カリ
フラワー・ブロッコリー

第7巻 キャベツ・ハクサイ・ホウレンソウ・
ツケナ類・ナバナ類他

第8-①巻 ネギ・ニンニク・ラッキョウ・ニラ・ワケギ・その他のネギ類

第8-②巻 タマネギ・アスパラガス

第9巻 ダイコン・ニンジン・カブ・ゴボウ

第10巻 マメ類・イモ類・レンコン

第11巻 特産野菜・地方品種

第12巻 共通技術・先端技術

*分冊販売はいたしません。

*年1回追録（加除）を発行します（有償）。

2024年版「追録49号」企画の重点

- 野菜の有機栽培の基本技術
- キャベツの品種選択と安定生産
- ブロッコリーの収穫予測と水田利用
- サトイモ・食用サボテンの新技術

〈野菜の有機栽培の基本技術〉

2022年、国は「みどりの食料システム法」を制定し、化学農薬の50%低減、化学肥料の30%低減、有機農業を全耕地面積の4分の1（100万ha）まで拡大することを目標に掲げた。有機農業を推進する市町村が増えており、エコファーマー認定制度に代わる「みどり認定制度」も始まるなど、有機農業への関心が高まっている。

今号では、主要野菜15品目（トマト、ナス、ピーマン、キュウリ、カボチャ、ズッキーニ、ス

イートコーン、キャベツ、ハクサイ、レタス、ホウレンソウ、コマツナ、ネギ、タマネギ、ダイコン）の有機栽培の基本技術とポイントを収録した。

これは、日本土壤協会が自然農法国際研究開発センターの執筆協力でとりまとめた有機農業標準栽培技術指導書「有機栽培技術の手引〔果菜類編〕」と「有機栽培技術の手引〔葉菜類等編〕」を、両団体の了解を得て再編集したもの。各品目の記事冒頭で、その品目の有機栽培のポイントが簡潔にまとめられ、その後有機栽培の実際・手順が具体的に記述される基本構成で、エッセンスが凝縮



写真1 魚住農園の踏み込み温床

(写真撮影: 依田賢吾)

可動式(移動式)の温床枠を並べて設置。2.7×1.8mの枠にコンテナ100杯分の落ち葉が入る



写真2 大型鉄製コンテナ(パレーテー)でのキャベツ出荷(愛知県田原市)

された、価値ある記事群となっている。

有機農業の共通技術である自家採種と育苗については、元広島県農業ジーンバンク・船越建明さんの「自家採種の基本と心得」、千葉県佐倉市・林重孝さんの「自家採種で有機農業経営」、茨城県石岡市・魚住道郎さんの「踏み込み温床」(写真1)を収録した。

〈キャベツの品種選択と安定生産〉

野菜の購入量1位・収穫量2位のキャベツ。加工・業務用の栽培で課題となっている作業分散に



写真3 食用サボテンの収穫適期の若い茎節

関する品種特性や、作型・用途・経営と品種選択、セル成型育苗、重要病害と対策、FOEASを利用した水田転換畑での安定生産技術を収録した。

また、高冷地夏秋どり栽培(群馬県嬬恋村)と秋冬・初夏どり栽培(愛知県田原市)、それぞれの産地を代表する生産者事例を収録した(写真2)。

〈ブロッコリーの収穫予測と水田利用〉

2026年度から指定野菜に格上げとなるブロッコリー。加工・業務用で重要な収穫期予測について、生育モデルを用いた予測技術と、ドローン空撮画像を用いた予測技術を収録した。

さらに、水田(転換畑)でのブロッコリー生産が拡大するなかで、排水不良などが課題になっているため、FOEASを利用した水田転換畑での安定生産技術と、千葉県での水田裏作ブロッコリーの圃場選定基準・育苗方法を収録した。

〈サトイモ・食用サボテンの新技術〉

新技術として、乾燥に弱いサトイモの灌水の要否を判断する簡易指標、ミネラルや食物繊維が豊富な健康野菜として注目を集める食用サボテンの栽培の基礎(写真3)を収録した。